

普通期水稻（元気つくし・ヒノヒカリ）管理情報 NO.1

1. 生育概況

6月の気象は、平年と比較して平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は並みとなりました。7月4日の生育調査の結果、6月上中旬植えのほ場では茎数が十分に確保され、6月下旬植えのほ場では活着し、順調に生育していました。また、目立った病害虫の発生はありませんでしたが、一部でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の食害を受けているほ場が散見されました。

2. 水管理

(1) 間断かん水

田植え後は、間断かん水（湛水→自然落水→湛水の繰返し）または、一時落水し適度にガス抜きを行い、根を健康に保ちましょう。特に麦わらをすき込んだほ場では、田植え後20日頃を目安に軽く田干しを実施しましょう。

(2) 中干し

中干しは、1株当たりの茎数が18~20本程度確保できたら開始してください（田植え後30日頃からが目安）。

※目標茎数に達していても中干しが開始されていないほ場が多く見受けられます。今年は梅雨明けが早く、晴天・高温が続いているため、茎数の増加が早い傾向です。各ほ場の茎数に応じて中干しを開始するようにしましょう。

① 中干しの時期

| 田植え | 中干し開始の目安 | 中干し期間 |
|-------|----------|--------------------|
| 6月7日 | 7月7日頃 | 土壤表面の乾き具合を見ながら7日程度 |
| 6月14日 | 7月14日頃 | |
| 6月21日 | 7月21日頃 | ※下記③の基準を目安とする |



② 効果

- ・土壤のガス抜きと酸素の供給によって根の活力を維持
- ・窒素吸収を抑え、無効分けつを抑制
- ・倒伏の軽減、地固めによるコンバイン作業性の向上

(目標茎数のほ場の様子)

(適切な中干し程度)

③ ポイント

- ・土壤が黒乾し田面に浅い亀裂があり、足跡が軽く残る程度を基準とする（土壤が白色になるまで干さない）
- ・生育過剰のほ場や排水不良のほ場ではやや強めに、生育が不足気味や水持ちの悪い田では軽めに実施
- ・中干し後は一度に深水にせず、走り水程度から始めて徐々に湛水

3. 病害虫補正防除

いもち病が発生した場合は、発生初期に補正防除を行いましょう。また、補植用苗は病害虫の発生原因になるため早めに処分しましょう。

| 病名 | 薬剤 | 薬量(10a 当り) | 使用時期 |
|------|-------------|-----------------------------|--|
| いもち病 | ダブルカットフロアブル | 水 140ℓ に 140mℓ (1,000 倍) | 穂揃期まで |
| | コラトップジャンボP | 10~13パック (500~650g) | 葉いちもつ：初発 20日前～初発時 穂いちもつ：出穂 30日前～5日前まで |
| | オリブライト 250G | 250g | 出穂 10日前まで (ただし、収穫 45日前まで) |
| | ノンプラス粉剤 DL | 3kg | 収穫 7日前まで |

4. 雑草補正防除

雑草が多い場合は、下記の除草剤を散布してください。雑草の生育が進むと除草剤の効果が落ちるので、登録の範囲内で早めに散布するようにしましょう。

| 対象雑草 | 除草剤名 | 薬量(10a 当り) | 使用時期 | 使用上の注意 |
|----------------------|------------------|---------------------|-----------------------------------|--|
| イネ科 広葉 カヤツリグサ科 | クリンチャーバスマE液剤 | 水 100ℓ に 1,000mℓ | 移植後 15日～ノビエ 5葉期まで 但し、収穫 50日前まで | 落水状態で散布する。 高温時散布は避ける。 展着剤は加用しない。 |
| | ワイドショット 1キロ粒剤 | 1kg | 移植後 15日～ノビエ 4葉期まで 但し、収穫 45日前まで | 湛水状態で散布する。 |

※イネ科雑草のみ場合は、「クリンチャーEW」もしくは、「トドメMF乳剤」を使用してください。

農薬安全使用のポイント

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③散布作業は涼しい時間帯に行いましょう
- ④散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ⑤防除履歴を記帳しましょう